

宮崎大学発 都農町かわら版

令和8年7月号



宮大が都農町寄附講座等
で行っている活動や情報を、
定期的にお知らせします！



寄附講座とは、教育研究の進展及び充実を図ることを

目的として、大学や研究機関などに対し寄附を行い講座を設置する制度です。町として
単独での寄附講座の開設は全国的にも珍しく、**宮崎県内では初めての取り組み**です。

コラム

つまるケア講座 日常の一幕 by 桐ヶ谷先生

医学部

宮崎では、台風は空気を読まずにやって来ますね。私はかなりの雨男で、大事な予定ほど雨雲に見つかり、何度も泣かされてきました。

釈迦に説法なお話ですが、備えは風雨が強くなる前に。飲み水や食料、懐中電灯、携帯電話の充電状況、常用薬を早めに確認しましょう。停電でエアコンが止まると、家の中でも熱中症になることがあります。台風の日こそ、こまめな水分補給を。無理な外出は避け、避難情報を早めに確認し、ご近所にもひと声を。

今月のけんこう講話 (6/25中町・7/10北町)

今回の2地区では、食中毒や熱中症など夏に注意すべきこと、総合診療医の役割、在宅医療やお看取りなどをテーマとしてご指定いただきました。回を重ねるごとに各地区の皆さんから、これも知りたい、あれも勉強したいというご感想もいただき非常に嬉しく思っています。これからが夏本番です。暑さに負けず楽しく乗り切りましょう！



中町のみなさん



北町のみなさん

☆☆都農にいる宮大のひとインタビュー☆☆



荒武 俊一郎 (あらたけしゅんいちろう) さん

医学部医学科6年生 宮崎市出身

趣味・部活：バンド、フットサル部・漢方部

・FMIG (地域医療・家庭医療のサークル)

町立病院にて6/8～9/18 (8月夏休み除く)

LIC長期臨床実習中

Q1. 都農町での実習を志願した理由、都農に来て感じたこと

学生でも積極的に診療に携わらせてもらえると聞き、より多くの経験を積むことができると思ったからです。都農町の皆さんが優しく接してくださり、様々なことを教えていただき、感謝しかありません！

Q2. 1か月間の実習を終えて印象に残っていること

訪問診療で患者さんの自宅にお邪魔した際に、家族との写真や趣味で集めているものなど、病院では分からないお話を伺えたことです。より最適な医療には患者さんの人生観を知ることが大事で、その手段となる訪問診療に魅力を感じました。

Q3. 都農町で体験したいこと

まだ都農町の食べ物や観光スポットを堪能しきれていないので、実習もですがそれ以外も全力で楽しみたいです。8月の祭りにも参加したいです！

☆今月の実習生紹介☆ 町立病院にて7/6～7/30

医学部医学科6年生

地域包括ケア実習

宮本 康靖 (みやもとこうせい) さん

出身：宮崎市 趣味・部活：和太鼓、アカペラ、ハンドボール



ひと言：外来に来られた患者さんの問診・診察及び採血などをさせていただいております。患者様、医療スタッフの皆さんは温かい方ばかりで、日々のびのびと実習ができています。

6/26. 7/3地域探索実習Ⅱを行いました。

2年生の地域探索実習Ⅱは、地域の企業を2か所訪問し、ビジネスモデルや各市場について、企業の課題や地域資源との関係などを各企業の見学、経営者の講話から学ぶという必修授業です。県内の8企業のうち、3社が都農町にある(株)河野農園、都農ワイン、都農まちおこし屋となっており、3グループ計72名が都農町企業を学びました。

台風の影響で河野農園さんは、オンラインでの実習となりましたが、代表の河野氏には、たっぷり約3時間ミニトマト生産の農業法人としての軌跡と現状、様々な取り組みについてお話いただき、学生からも様々な質問にも丁寧に答えいただき、メモの手が止まらない充実した内容でした。

また、7/3午前中には高鍋町の口蹄疫メモリアルセンターを訪問し、語り部の押川氏に当時の様子をお話いただき、当事者の生の声を聞く貴重な機会となりました。午後は2グループに分かれ、都農ワイングループは都農マリアージュのレシピを使った「やさしさつるお弁当」を昼食にいただきました。その後、赤尾社長からの講話を聞き、工場とワインの香り漂う樽貯蔵庫内を見学しました。2年生になり、成人となった学生はワインへの関心も高まっていたようでした。

道の駅グループは、道の駅の売り場見学をしながらお昼を取り、松山駅長に道の駅ができた経緯や当時の町の状況、現在までの歩みについて伺いました。学生からも鋭い視点での質問や感想があり、駅長からお褒めの言葉をいただきました。



受け入れくださっている3企業の皆様には、毎年資料内容も最新情報に更新してさらに充実したご講義をいただき、感謝申し上げます。

7/1・8 地域学基礎の未来財団、町長講義

都農学3回シリーズの2回目7/1は、つの未来財団の財津拓実さんに、最終回7/8は坂田町長にご登壇いただきました。

財津氏からは地元出身の若手の役場職員のお立場から見た都農町、またつの未来財団の取り組みの軌跡と現在を詳細に語っていただきました。比較的年齢の近い方のお話に、学生は自分の10年後の姿を想像しながら、まちづくりに関わる思いを聞くことができました。

また、坂田町長からは、どのような思いで町長になられたか、縮小社会の中で生き残るための町政へのご自身の思い、「自助・互助・共助」の考え方など、町長から直々にお話いただく貴重な機会でした。「町長になられてわかった町の資源は何か」という学生からの質問に、「郷土愛の強さ」を挙げていらっしゃいました。

地域への貢献を考える町民を増やす意識改革や、人の流れをつくる取り組みへの期待などもお話されました。

町の未来を町民の皆様と共に作っていくことを大切にする、町長の思いが感じられるご講義でした。



7/3 PBL2年生による観光協会ヒアリング

PBL受講の2年生2名が町内イベントの現状と課題について知るために観光協会の藤本事務局長にヒアリングをしました。昨年からマーケット跡地に場所を移して開催している産業まつりのほか、恒例開催されている尾鈴滝めぐりやもみじ狩りなど、尾鈴山の魅力を知るツアーについても伺いました。

子どもや若い世代に向けた発信や企画など、学生が関わることで何ができるのか、新しい年齢層の参加や新たな企画提案などを学生が各々で考え企画実践につなげていきます。今後の活動への展開を見守りたいと思います。



デジタル版

編集・作成：宮崎大学研究・産学地域連携推進機構
発行日：2026年7月16日（原則毎月発行）
発行元：一般財団法人つの未来まちづくり推進機構
問い合わせ：0983-32-1270（つの未来財団）